

病院ではこんな仕事をしています！



薬剤師

処方箋に基づいて薬を調合し、患者さんの治療のお手伝いをします。ただ薬を渡すだけではなく、患者さんの体調やこれまでの薬歴などを聞き取りし、役立てます。



看護師

医師の指示のもと注射や点滴などの医療行為をしたり、体調が悪い患者さんの不安が少しでも和らぐようにいろいろな相談に乗ったりします。



医師

医療の責任者として看護師などに的確な指示をし、他の医療従事者とともに患者さんがふだんの生活に戻れるよう、病気や怪我の治療に取り組んでいます。



理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

理学療法士は、運動や物理療法などの運動機能面から、作業療法士は、日常生活に必要な作業面から、言語聴覚士は、ことばや食事などの多岐に渡りそれぞれサポートします。



管理栄養士

栄養士法に定められた国家資格で、健康な方、疾患がある方に関わらず、栄養指導や栄養管理、給食の運営など、食と栄養の専門職として多岐にわたって活躍しています。



臨床検査技師・臨床放射線技師

臨床検査は、医師が病気の診断や治療方針の決定にとっても大切です。検査技師は血液や細胞などから、放射線技師はレントゲンから検査や放射線治療なども行います。



事務

総務・経理・庶務・医事課があり、病院の経営に関わること、病院施設の維持や運営、働くスタッフのサポート、患者さんの治療に関わった診療報酬の申請なども行います。



歯科衛生士

歯科の予防処置、診療補助、保健指導を行う国家資格。『食事を美味しく食べる』『楽しく会話をする』など、日々の生活を歯と口腔の健康の面からサポートするのが歯科衛生士です。

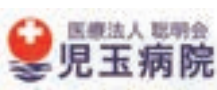


臨床工学技士

医師の指示のもと生命維持管理装置などの現代医療に必要不可欠な高度な医療器具の操作や、保守を行うスペシャリストです。他の技師とは違い、医療と工学の両面を兼ね揃えた資格者です。



医療法人聡明会 児玉病院
住所／別府市亀川四の湯町5-19
TEL／0977-67-1611
URL／<https://soumeikai.or.jp/kodama/>



- ◆ 設立／1949年
- ◆ 職員数／195名
- ◆ 2026年採用状況／専門大学・専門学校・随時採用予定

事業内容

内科／循環器内科／消化器内科／リウマチ科／心療内科／呼吸器内科／リハビリテーション科／整形外科／人工透析センター／訪問診療／訪問看護

入社時に必要な資格

- ◆ 医師免許・看護師免許をはじめ、職務に沿った資格

入社後に取得可能な資格

- ◆ 認定看護師
- ◆ 専門看護師
- ◆ 認定理学療法士 など上位資格

高齢化社会を若い力と地域で切り拓いていく

76年前に開業し、時代とともに診療科目も増え、別府市で地域包括ケアシステムを支える中核病院となった児玉病院。温泉の里らしく療養を兼ねた施設も多い中、同法人内の耳鼻咽喉科と皮膚科のクリニックと協力し地域に根付いた医療を進めてきた。近年では「病院スタッフのスキルアップ」として看護師だけでなく、リハビリスタッフなどの専門認定資格の取得支援に力を入れたり、県内外の研修会やセミナーにスタッフを派遣して新たな知識を得る機会を与えたりしている。それにより未曾有の事態となった新型コロナウイルスの大流行時でも、感染の認定資格を取得した看護師によつて的確に対応することができた。その他にも「働き方改革」として産・育休、再雇用、子育て支援など男女を問わずの推進や、ゴルフ、釣り、マラソン、地域ボランティア等の院内サークルを支援し職員のプライベートの充実化にも取り組んでいる。また、コロナ過で休止していた健康をキーワードとした「こだま健康サロン」として笑いヨガ、健康講座などのふれあいの場を徐々に再開。

地域住民とのコミュニケーションを大切に、し、体の異変等を気軽に相談してもらつ、ことで、より密着した地域医療を実現していきたい。

SKILLUP!

資格を取得して
スキルを
磨く



主任看護師
成水 貴洋さん
入社11年目

2018年児玉病院に入社、主任となり病棟看護師として活動していたが、感染管理認定看護師取得後、専従で感染管理を担う。

資格名

感染管理認定看護師

取得には看護師として5年の経験（うち感染に関わる実務3年以上）が必要で、感染管理認定看護師教育課程の学校で約6ヶ月間勉強し、試験に合格しなければなりません。取得には苦労しましたが、新型コロナのような特定の感染症が流行すれば、いろいろな施設で対策、指導をするなど、地域貢献度も高い資格です。

- ✔ 感染管理のスペシャリスト
- ✔ 災害や特定感染症の流行時には必要な資格者
- ✔ 社会貢献度も高く、熟練した技術と知識を有する



Leader's interview

トップリーダーにインタビュー



Q 病院の面白いところ

A 病院は多職種協働の最たる職場で、まさに多様性の世界です。そして向き合う患者さんの性格や趣味、考え方も多種多様で患者さんに関わりながら病から回復されていく時間をみんなで分かち合えること、「病気を治す」という目的に向け一致団結して取り組むところです。

Q こういう若者に担ってもらいたい

A 超高齢化社会はこれからもまだまだ続きます。医療や介護を通じて、一人でも多くの方が幸せに寿命を全うできるような社会にしていけることが大切です。自分の祖父母、そして両親、支えてくれている方々に“長生きできて本当によかった”と思ってもらえるような若者に担ってもらいたいです。

Q 中長期的ビジョン

A 別府市内の基幹病院での急性期治療終了後の継続治療や、すぐに自宅に帰ることが困難な方の生活期リハビリテーションを主体とした地域医療を担っていきます。併せて訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションにも力を注ぎ、社会・地域に必要とされる病院として貢献していきます。



医療法人聡明会 児玉病院院長
衛藤 宏さん

1982年近畿大医学部卒、九大附属病院、湯布院厚生年金病院を経て、2009年6月より児玉病院副院長に就任。2018年より院長に就任し現在に至る。

SKILLUP!

資格を取得して
スキルを
磨く



理学療法士
菅 莉穂さん
入社5年目

大分リハビリテーション専門学校を卒業後、児玉病院に入社。その後、2年以上の実務経験を経て同資格を取得。

資格名

3学会合同呼吸療法認定士

理学療法士の場合、実務2年以上で指定された講習会、学会に参加することで受験資格を得られ、最短6ヶ月ほどで取得できます。理学療法士の資格取得の勉強の際、呼吸分野も学びましたが、高齢化が進む現代で呼吸管理を行うスペシャリストとして、さらに学ぶために資格取得を目指しました。

- ✔ 呼吸器疾患の患者さんなどのリハビリテーションが可能
- ✔ 高齢化社会にもっとも必要な資格のひとつ
- ✔ 呼吸ケアのスキルアップにつながる



Leader's interview

部門リーダーにインタビュー



リハビリテーション室
リハビリテーション科長 寺村 康さん

専門性が高い職場ですが、地域の方、入院・外来患者の方の生活を支える仕事だと考えています。科に属している職員がその専門性を十分に発揮できるようにすることを心がけています。



地域連携室 副看護部長・地域連携室長
衛藤 聡さん

仕事で大切にしていることは患者さんやご家族の方をはじめ、人と関わることが多い役職ですので、相手を不快にさせない、相手を思いやることを一番に考えて業務に取り組んでいます。



外来 看護師長
渡辺 裕美さん

患者さん、ご家族の方が安心して診療、検査などを受けられるように環境を整えたり、現場スタッフがスムーズに仕事ができるように管理したりするのが仕事です。チームワークが大事です。



✎ 季節を感じる院内イベントで心のケアを

入院中の患者さんやご家族に楽しんでもいただけるよう、院内イベントを積極的に開催しています。夏は「こだまの夏祭り」を開催。季節の風物詩を感じながら交流を深める機会を提供し、「春カフェこだま」では、温かい雰囲気の中で、心安らぐひとときをお過ごしいただきました。



✎ 職員のリフレッシュと交流の場

交流やリフレッシュを目的としたサークル活動もしています。ゴルフ部、釣り部、マラソン部、ボランティア部、新たに卓球部が職員によって結成され、病院からは活動資金の支援も行っています。また、ボウリング大会や忘年会なども定期的に開催し、職員同士の親睦を深めています。

病院の取り組み



Interview

先輩職員にインタビュー



✔ 仕事についたきっかけは？

高2の時に専門学校が開催していた医療事務無料講座に友人と参加し、診療報酬明細書の書き方などを学び、医療事務という仕事の内容を知ること興味を持ったことです。診療報酬の内容は2年ごとに改定されますので、新しく覚えることも多いですが、すぐに適応できるように内容を十分理解して臨機応変に対応できるように考えています。

医事課事務員（医療事務）
柴田 花梨さん（写真下） 入社6年目

✔ 仕事についたきっかけは？

仕事をするイメージが学生時代は薄く、進路を決めなければいけない時にどのような職種があるか調べました。管理栄養士の職種を目にし、子供の頃からお菓子作りや食べることが大好きな私にピッタリだと感じ、管理栄養士養成コースがある大学に進学しました。今では、患者さんやご家族から掛けていただく「ありがとう」の言葉にやりがいを感じています。

管理栄養士
今川 泰代さん（写真上） 入社19年目

